

整理番号	26003
評価対象年度	令和3年度
編成区分	当初

事務事業評価(事前)シート

提出日	令和2年11月18日
事業担当課	障害福祉課
担当者・内線	手島、吉岡・2626

《基本情報》

事務事業名	ピアサポーター養成費		<input checked="" type="checkbox"/> 新規
			<input type="checkbox"/> 拡大
基本施策	F3 障害者が暮らしやすいまちづくりを進めます		
基本施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	障害者が	地域で自立した日常生活、社会生活を送っている。	
個別施策	F3-3 障害者が地域で安心して暮らせる環境づくりを進めます		
個別施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	障害者が	地域で安心して居住している。	

《事業の目的及び現在の取組み概要等》

現状・問題点	・自らの障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うピアサポーターは、経験者としての視点で助言等を行う重要な役割を果たしているが、ピアサポーターとして活動できる人や活動の場が少ない。
目標(誰(何)をどのような状態にしたいのか)	精神障害者等が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、ピアサポーターとして活動できる人や活動の場を増やしていく。
課題(どういことをする必要があるのでか)	ピアサポーターを養成し、精神障害者等の社会参加促進及びピアサポーターが活躍する場の創出、拡大を行う必要がある。
上記の問題点に対して現在行っている事業の有無	有・ 無 ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等)
当該新規・拡大事業を行うにあたり、縮小・統合・廃止する事業	有 ・無 ※就労支援施設等経営力向上支援 新規・拡大事業を行うためには、今までやってきた取組みを検証し、成果や効果が低い事務事業の終了も含めた「選択と集中」に努めることが不可欠です。

《事業の概要》

事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業期間、総事業費、事業費内訳等記載)	<p>精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神障害者の視点を重視した支援を充実する観点や精神障害者が自らの疾病や病状について正しく理解することを促す観点からピアサポーターを養成し、精神障害者の社会参加促進及びピアサポーターが活躍する場の創出・拡大について推進するもの。</p> <p>・ピアサポーター養成委託費 長崎大学が開発したプログラムなどを活用し、ピアサポーターの養成講座の開催(10回)及び福祉事業所等への雇用に繋げるための周知啓発活動を行うための費用 人件費、会場借上料、謝礼金、交通費、通信運搬費、消耗品費、一般管理費等 1,900,000円 【補助率】国1/2、県1/4</p> <p>※ピアサポーターの活動の一例 ①障害者相談支援事業所等において、利用者の目線に立った助言や制度説明等の相談対応を行う。 ②事業所職員に対して体験を元に障害者への配慮等の研修を行う。 ③経験者ならではの視点で障害者の家族関係について助言を行う。など</p>
--	---

事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業期間、総事業費、事業費内訳等記載)	※ピアサポーターの効果 ①利用者(障害者)に与える効果 経験者ならではの気持ちに寄り添った助言や障害特性にあった福祉サービスの活用などの提案を行うことなどにより利用者ニーズを満たすことができ、障害者の社会参加促進や地域移行につながる。 ②事業所の他の職員に与える効果 障害者である同僚と一緒に働くことで障害者の尊重や理解が深まるなどの効果がある。						
業務量の増減	400h						
市民等の参画と協働のまちづくり (取組みに☑をし、その内容を記載)	<input type="checkbox"/> 情報共有 <input type="checkbox"/> 参画 <input type="checkbox"/> 協働						
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定 (3年度～ 5年度)						
予算額		金額(千円)	国	県	地方債	その他	一般財源
	当年度	1,900	950	475			475
	総額	5,700	2,850	1,425			1,425
	財源名称	地域生活支援促進事業補助金					
成果(活動)指標	指標(単位)	精神障害者等のピアサポート養成修了者人数					
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	目標値	20	25	30			
	成果指標及び目標値の説明	ピアサポーターとして活躍できる人の養成を目的としているため、ピアサポーター養成修了者数を目標値とする。					

評価結果

(1)今後の事業の方向性と理由						
<input checked="" type="checkbox"/> 採択	<input type="checkbox"/> 所管案のとおり	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善	<input type="checkbox"/> 事業規模拡大	<input type="checkbox"/> 事業規模縮小		
	<input type="checkbox"/> 事業統廃合	<input checked="" type="checkbox"/> その他				
<input type="checkbox"/> 不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分					
<input type="checkbox"/> 一部不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分					
(2) 評価会議における指摘事項						
<p>自らの障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うピアサポーターは、精神障害者の社会参加促進をはじめ、地域移行へつなげる重要な役割を果たす人材である。</p> <p>しかしながら、ピアサポーターとして活動できる人や、活動する場が少ない状況にあることから、長崎大学が開発したプログラムなどを活用し、ピアサポーターを養成する講座を開催するとともに、福祉事業所等に対し、ピアサポーターの雇用について周知啓発活動を行うものである。</p> <p>ピアサポーターを養成し、雇用について周知啓発活動を行うことで、ピアサポーターが活動する場の創出・拡大が図られるとともに、精神障害者が地域で安心して自分らしい日常生活、社会生活を送ることに寄与することから、事業の実施は適当である。</p> <p>ただし、事業実施に対する意見は次のとおり。</p>						
<p>【市長ヒアリングまでに(予算計上にあたって)整理すべき事項】</p> <p>・ピアサポーターの必要性、養成後の展望(目標とする雇用数など)を分かりやすく示すこと。</p>						